

介護老人保健施設ライフサポートひなた

症 例 概 要 利用者氏名：OH様（80代 女性）
病名：脳梗塞 高血圧症 心房細動
利用サービス：通所
経緯：軽度認知症あり。独居が難しくなっている。

内 容

平成27年ごろより、認知症状や身体機能の低下の為、ひなたの通所リハビリを週2回利用され、通所リハビリ、訪問介護サービスを利用されながらおひとり暮らしをされていました。

平成28年12月、通所リハビリにて入浴中に、脳梗塞を発症し入院。その後、身体機能の低下や認知症状の進行により、一人での生活が難しい状況になりながらも、ご家族の介護、ひなたのショートステイ、入所、通所リハビリを利用し過ごされてきました。

平成29年12月、ご自宅が昔ながらの日本家屋であり、温度管理も難しい事、娘様のお姑様の介護も重なり、冬季の期間入所をする事になりました。

平成30年1月心不全を発症し協力病院に入院となるが、病状安定した為、再入所。要介護状態はサービス利用開始時の要支援2から要介護5になっていました。

ご家族の住み慣れた自宅で、出来るところまで介護をしたいと希望が強く、暖かくなったら自宅に連れて帰りたい、特別養護老人ホーム入所までの間、娘様が自宅に泊まり込み介護を担いたいとの事でした。

退所に向けて、娘様への介護指導、食事栄養指導、外泊・外出支援、ケアマネージャー、特別養護老人ホームの入所までの期間も見極め等、各サービスの連携を図りながら、在宅復帰に向けて準備を進めていきました。退所後はひなたの通所リハビリ、訪問リハビリを継続し、退所後の機能低下予防に努めました。

平成30年3月末、ご自宅に戻られ、その1ヵ月半後に体調を崩す事もなく特別養護老人ホームに入所されました。

娘様からは、ご自宅で満足いく介護が出来、また本人の希望していた、地域の特別養護老人ホームに入所も出来た事に感謝していますとお言葉を頂きました。

要介護状態が高く、在宅復帰が難しく思える状況下でも、ご家族の強い意志、各職員間、事業所間での連携により、ご本人、ご家族共に満足して頂けた事例です。